

日 ASEAN 経済共創ビジョン策定のための検討委員 第七回会合 議事要旨

1. 日程：令和5年7月13日（木）15:00～16:10

2. 場所：ハイブリッド開催（Microsoft Teams）

3. 主な出席者（敬称略、五十音順）

（座長）

白石 隆 公立大学法人熊本県立大学 理事長

（委員）

相澤 伸広 国立大学法人九州大学 比較社会文化研究院 准教授

澤田 康幸 国立大学法人東京大学大学院 経済学研究科 教授

清水 新一郎 日本商工会議所 ASEAN・日本経済協議会日本委員会委員

平野 未来 株式会社シナモン 代表取締役社長 Co-CEO

（事務局）

経済産業省 通商政策局 松尾局長・アジア大洋州課

日本貿易振興機構 調査部 アジア大洋州課

EY 新日本有限責任監査法人 CCaSS 事業部

4. 議事概要（委員の主な発言要旨）

■ 経済産業省通商政策局 松尾局長より開催挨拶

◇ 日 ASEAN 経済共創ビジョン策定のための検討委員も7回目となり、本日が最終回である。今まで議論を進めて頂いた白石座長と渡辺主査に感謝申し上げます。渡辺主査については、ERIAの事務総長に就任しており、ビジョンの実施に向けた取組が広がっている。また、本検討委員会に委員としてご参加頂いた有識者や経済界の代表の皆様にも感謝申し上げます。あわせて、事務局の皆様にも感謝申し上げます。

◇ 日 ASEAN 友好協力50周年の記念すべき年に、次の50年を見据えた、新しい時代の日 ASEAN 経済関係を共に創っていくためのビジョンを検討頂いた。2つのキーワードである、日 ASEAN が今まで培ってきた「信頼」、共に創っていく「共創」を軸に検討を進めて頂いた。政府としても、検討委員会で取り纏められたビジョンを基に、カーボンニュートラルやデジタルトランスフォーメーションへの対応、スタートアップ、日本が強みとしている半導体やバイオ、自動車や航空宇宙など、これら分野において、日 ASEAN が未来に向かって共に発展していく取組を強化していきたい。また、これら取組の前提となる、人と人とのネットワーク強化にも取り組む。

◇ 今後の予定としては、8月の日 ASEAN 経済大臣会合では日 ASEAN 経済共創ビジョンと日 ASEAN 未来デザイン及び実行計画を発表していきたい。また、年末の日 ASEAN 特別首脳会議では、経済共創に関するフォーラムを開催し、日 ASEAN 経済共創ビジョンおよび、その実現に必要なアクションについて、議論して、アピールしていく。日本が ASEAN と共に成長センターの一角を担えるよう、また、信頼を基盤とした環境を形成できるよう、これからも尽力していく。

■ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン (案)」と「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要)」

◇ 全体の纏め方について

- ・ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン (案)」(本編)と「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要)」(サマリ)の2つあるが、本編に何を記載し、それをどう纏めるかが重要になる。基本的な方針としては、日 ASEAN の「経済共創ビジョン」であるため前向きな記載にするべきである。また、非常に大きい方向性を示す記載にするべきと思料する。
- ・ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要」および「日 ASEAN 経済共創ビジョン (案)」、共に基本的にはよくできていると思料する。4つの柱を軸に取り組むべき具体的なアクションが重要になるが、ビジョン本文の中で提言できる内容には限界があり、詳細なアクションは、「ビジョンの実現に向けて考えられ得る施策 (案)」に記載されているため問題ない。

◇ ビジョンで伝えるべきメッセージについて

- ・ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要)」の内容は問題ないので、8月の日 ASEAN 経済大臣会合に向けて、文章をすっきりさせることが重要である。具体的には、次のキーメッセージが一目で分かるように、日本語と英語の文章を修正して頂きたい。「これまで培ってきた信頼をもとに、安全で豊かで自由な社会を経済共創でもって実現する。具体的には、AZEC等のサステナビリティに関する取組、オープンイノベーション、社会基盤の整備、グローバル・リージョナルな社会課題解決を推進し、それらを通じて、双方向の人的交流を更に促進していく。」こうしたメッセージが一回読んでわかるように修文頂きたい。
- ・ なお、12月の日 ASEAN の特別首脳会談では、上記のメッセージを踏まえた上で、「日 ASEAN 双方向の人的交流を促進することで、更に信頼を構築していく」ことがキーメッセージになると思料する。残りの期間で、日 ASEAN 経済共創ビジョンの実現に向けた具体的な施策の記載の検討ではなく、日 ASEAN 経済大臣会合および特別首脳会談のメッセージを考えて頂きたい。

◇ 日 ASEAN ビジネスウィークでの議論結果の反映について

- ・ 日 ASEAN ビジネスウィークにおける日本商工会議所の西谷理事の発言を反映いただき、ビジョンの中に、「中小企業」という言葉を明記頂いたことはよいと考える。ビジョンで記載されている通り、デジタル・デバイドや人材育成、グリーントランスフォーメーションについて、ASEAN と共通認識のもと、中小企業ももともとあった課題を ASEAN の企業と一緒に取り組んでいくことが重要である。また本ビジョンは、ASEAN 側の意見をしっかり拾った上で事実裏打ちされた中身となっている。

◇ 経済共創ビジョンの英語版について

- ・ 英語について、4点コメントがある。1つ目に、「Epicentrum of Growth」という表現を用いているが、「Epicentrum」は地震の震源地という意味もあり、ネガティブな印象を受ける。2つ目に、「vision redefines ASEAN-Japan economic partnership」と記載されているが、「redefine」という言葉は「再定義」という意味を持つため、従来の日 ASEAN の経済関係があまり良くなかったという印象を受けるため、「強化」や「再構築」といった前向きな記載に修正することを検討頂きたい。3つ目に、「Global」という言葉が頻出しているため、言い換えて頂きたい。4つ目に、「活力ある人的資本」を「vibrant human capital」と英訳しているが、「quality human capital」などに修正することを提案する

◇ 経済共創ビジョン最終化の方針について

- ・ 日 ASEAN 経済共創ビジョンを取り纏める。本日頂いた意見等の反映については、「座長一任」という形でご了承頂くことで、異論ない旨、参加の委員より確認した。

■ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要)」

☆ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン実現に向けた 4 つの取り組みの柱：サステナビリティの柱」について

- ・ 4 つの柱を記載する順番を検討する余地がある。現状では、大きい話として「サステナビリティ」の柱について最初に言及したあと、より具体的な議論として、他 3 本の柱を記載しているが、最初に「イノベーション」「コネクティビティ」「人的資本」について記載したあと、最後に「サステナビリティ」の柱で取り纏めるという構成も考えられる。
- ・ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要」における、「サステナビリティ」の記載について、現在は、地球規模の課題として「気候変動」「カーボンニュートラル」「エネルギーtransition」について言及した後、サーキュラーエコノミーとして具体的な課題が記載されているが、全体として気候変動に寄った記載になっているため、より幅広いテーマがサステナビリティに包摂されるように記載を修正すべきと思料する。具体的には、次のテーマはサステナビリティに含めたほうがよいと思料する。パンデミック等に対する災害レジリエンスや、サプライチェーンのレジリエンス。2 つ目に、サイバーコネクティビティにも関わるテーマでもあるが、データセキュリティやサイバーセキュリティについて、デジタル・デバイドの是正に向け、デジタルプラットフォームのフェアな共創環境を整備する重要性について言及することが考えられる。3 つ目に、食料残差 (Food Loss) について言及されているが、より大きな課題として、Food Security についての言及があるとよい。更に、4 つ目として、経済の枠を超えてしまう可能性もあるが、テロなど従来の意味での安全保障 (セキュリティ) について言及があるとよい。以上のように、現状の案だとサステナビリティの柱において、気候変動に重点が置かれているが、もう少し膨らませた記載にした方がよい。その一つの案として、「多様性・包摂性を両立するサステナビリティ」の柱の中に、「レジリエンス」という言葉を追記することを提案する。
- ・ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要」における、「サステナビリティ」の記載について補足する。「レジリエンス」という言葉をサマリに含めて頂きたいと提案したが、本編には既に「自然災害へのレジリエンス強化」など記載がされており、同様に、サマリである概要版にも「レジリエンス」について言及したほうがよいと考える。また、レジリエンスの観点で、人口動態の変化に言及することも重要と思料する。例えば、ASEAN でもタイ等では急速に高齢化が進んでおり、日本が ASEAN のモデルになり得る。なお、前述のテーマを全て「サステナビリティ」の柱に記載する必要はなく、ビジョンのどこかに言及があればよいと思料する。重要なのは、「サステナビリティ」の柱では、なるべく大きい話から始め、そして前向きな記載にすることである。
- ・ レジリエンスに関する意見に賛同する。気候変動には Mitigation と Adaptation の 2 つの側面があるが、日本及びアジアの政策は、Mitigation に関するものが多い一方、Adaptation の施策は限定的である印象を受ける。一貫した気候変動対策に取り組むうえでは、Mitigation だけでなく、Adaptation の施策も重要と思料する。例えば、国連などでは、気温の上昇を止めることは難しいという予測のもと、予算の半分を Adaptation にあてている。こういった事例を参考に、Adaptation に取り組むための Adaptation Fund を日 ASEAN で設立するなどの施策を検討する余地はあると考える。

☆ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン実現に向けた 4 つの取り組みの柱：人的資本の柱」について

- ・ 「人的資本」についてコメントする。アジアのタレントを採用したいと日本企業は考えている一方、Employerとして日本企業が十分な受入体制を整備できているかについては、課題がある。担当の日本人社員が英語を喋れないと、ASEAN人材と日本人との間に分離が生じてしまうという課題に直面する。ASEANと共創するうえで、日本企業のグローバル化を進める必要性があることを指摘すべきと思料する。

◇ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン実現に向けたアプローチ」について

- ・ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン(案) 概要」の「日 ASEAN 経済共創ビジョン実現に向けたアプローチ」において、「ビジョン実現に向けた具体的な施策として、別添に加え、以下の取り組みを推進していく。」と記載されているが、「推進していく」と記載すると、今後実施していく取組であるという印象を受ける。本セクションで記載している取組は、既にこうした取り組み実施をしており、今後こうした取り組みを実施することでこれまでの「信頼」を更に拡大していくために実施する必要がある取組であるため、その旨が伝わるように記載方法を修正頂きたい。そうすることにより、「日 ASEAN 未来デザイン及び実行計画」の実行にもつながる。

■ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン」の実現に向けて

◇ ビジョンのフォローアップについて

- ・ 日 ASEAN ビジネスウィークでも「信頼」が重要なキーワードとして取り上げられた。日本は言いっぱなしにしないから、「信頼」を勝ち取ることができたと話が聞かれたが、本ビジョンも言いっぱなしにしてはならない。本ビジョンを言いっぱなしにしないためにも、「何を共創するのか」を明確にし、定期的にチェックする場を設けるべきである。ビジョンの中にフォローアップの約束がないと、本ビジョンのフォローアップが行われず、日本はコミットしないという、間違ったメッセージを ASEAN 側に発信してしまうことを懸念する。
- ・ 日 ASEAN が共創するテーマを定期的に決めるうえで、ERIA を活用できると考える。ERIA はまさに、日本と ASEAN が共創してきた Institution であるため、ERIA で毎年 Vision Meeting を開催することは一案である。日 ASEAN が共創すべきテーマは年々変わるため、日 ASEAN が共創していくことを約束したうえで、そのテーマを検討するために継続して Dialogue を行うことを締めに記載するのがよい。なお、補足をすると、Mekong Institute からは、アクションプランを作るのであれば、その進捗状況を可視化して欲しいと意見が聞かれた。アクションプランの進捗状況が分かることで、目標の達成に向けて何が足りないのか可視化されるため、よりコミットメントにつながると伺った。
- ・ 「日 ASEAN 未来デザイン及び実行計画」のフォローアップを行うと同時に、日 ASEAN 経済共創ビジョンをフォローアップできるとよい。今年は日 ASEAN 友好協力 50 周年として、インサイト募集の活動の一環で経済界に 14 の調査・イベントを行って頂いたが、今後も、経済界による取組を定期的にフォローアップする場を設けるのはよい。ERIA とは相談になるが、前向きに検討する。
- ・ 対日直接投資残高を見ると、1年で5.5兆円増加して、去年は46.2兆円に達した。背景には、地政学的な理由で日本に投資するケースが多く、アジアからも日本に対する強い信頼を感じている。委員の皆様にご覧いただいたビジョンをもとに、JETROとしては、その実現に向けて、現場で尽力していきたい。

■ 「日 ASEAN 経済共創ビジョン策定のための検討委員」の全体総括

◇ 白石座長より閉会の挨拶

- ・ 日 ASEAN 経済共創ビジョンの策定のため、1年間にわたり中身の濃い議論をして頂き、感

謝申し上げます。よいビジョンができた。こういったビジョンは、中身も勿論であるが、メッセージ性も非常に重要になるため、どのようなメッセージを打ち出すか検討し、日 ASEAN 経済共創ビジョンを最終化していきたい。

以上